

健全育成シリーズ(91) あいまいな人間関係



そして、そのきわだった特徴の一つとして、そういう機械に囲まれて育った人間は、世の中というものを、機械のようなかたちで操作できるものとして学んでいくということがあげられます。

子どもが人間になるには、人間である親によって、人間とはこうするものだという規範を示してもらわなければならない。ところが、時代は人間の手の延長としての道具だけでなく、人間の代役をつとめるといふ特性まで備えた機械を手に入れました。その先兵がテレビです。テレビの登場によって、どんなに面倒でも親がやらなければならなかった「子守り」というわずらわしさから、大幅に解放され、かなりの部分の「子守り」をテレビにゆずりました。

テレビだけではありません。ファミコンなど、オートマチックに反応するおもちゃや類。子どもは人間の親のほかに、こうした機械というもう一つの親を持つようになったわけです。

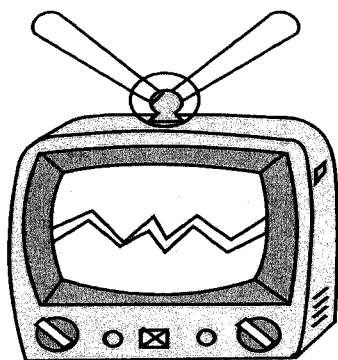
子どもが新しい親である機械と過ごす時間が増大する一方、人間である親との接触度は相対的に減少しました。子どもたちは人間である親を通して現実を知りながら、機械の「操作」を通して現実を習得していくというまったく新しい局面を迎えたわけです。その結果、人間に育てられる場合とまったく違った心理構造を持った人間が育つのはむしろ当然のことです。旧来の人間とはまったく違った人間性を持ちはじめているという事です。

ボタン一つ、スイッチ一つで思う通りに満足を与えてくれる何人もの家来を持つているのと同じです。なんでも自分の思い通りにコントロールできるものと錯覚した自己中心的な子どもが増えていくという事実があります。

機械との関わりは人との関わりよりも容易に手に入ります。人との関わりは、知り合って意気投合しあうまでには、それなりの過程がありますが、機械の場合はそんな過程は必要ではありません。ファミコンはスイッチ一つで関わりを持てます。そうした関係が日常化し、身に付いた結果、人間関係でわずらわしいトラブルが起きるとすぐ、この機械との関わりの中に引きこもろうとする傾向を強く持つようになります。一人寂しくなつたときは、けんかした友達と何とか和解しようと考えてるかわりに、ステレオやテレビのスイッチを入れます。親とのゴタゴタを避けて、自室に引きこもる傾向が現れてきます。

家庭生活を振り返ってみると、子どもも親も、お互いの人間関係は傷ついたり傷つけられたりしながら次第に濃くなっていく深い情緒関係を育てていく機会を失って、会話も一方通行で対話性を失い始めています。家庭が団らんしているように見

えても、何の話題もなく、テレビを相手に笑ったり、感じたりしている夫婦、父母といながらテレビにはばかり関心が向いて父母との会話には上の空の子ども。テレビがあるからこそ、みんなが家族としてのまとまりをなんとか保っていると言ええます。そして、この事実はお互いがごく身近に共存しながら、実は、お互いから、引きこもっていることを意味していると思えます。パチンコやゲームから離れたとき、あるいは家庭でテレビのスイッチを切ったとき、突然、訪れる一種の沈黙によって露呈されることは誰もが経験していることだと思えます。



子どもたちが機械を相手にすることを好み、人間との関係をわずらわしがるのと並行して大人もまた子どもと同じような心性を身につけ、わずらわしい関わりを避け子どもを機械にまかせようとする傾向を生んでいると思えます。思春期を迎えた子どもから痛感させられるのは、自分が親やまわりの人間にいて、はじめて生きていられる存在なのだということ、現実では自分の思い通りにコントロールできるものではないのだということ、を思い知らせる経験を持たせなければならぬと思えます。

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608-3

☎(22)7824

リハビリテーション

週間ののご案内

(1月28日)~(2月3日)

「リハビリは、寝たきりゼロへの第一歩」

ゼロへの第一歩

この標語は、高齢者などの方々の「寝たきり」予防を図る上で、リハビリテーションが果たす役割

が大きいことを、再認識していただくとともに、寝たきりゼロへ向けての今年度週間のテーマです。

県では、この期間中に次の各種事業を開催しますので、一人でも

多くの方の参加をお願いします。

○リハビリテーションのつどい(講演会など)

1月28日(木)
県立文学館講堂

○ふれあいフォトコンテスト作品展
示会および機能訓練事業作品展

1月28日(木)~2月3日(水)
県立文学館研修室

○高校生の一日リハビリテーション体験

1月29日(金)
県内民間病院

○機能訓練事業研修会

2月3日(水)
県立総合研修センター大研修室

アトピー性皮膚炎の

おはなし

アトピー性皮膚炎は気管支ぜんそくやアレルギー性鼻炎などにかかったことがあったり、両親にこれらの病気があったりする場合にできることが多く、かゆみのある慢性的な湿疹です。

子どもが、かゆくて皮膚をかきむしったり、赤いポツポツがなかなか治らないときは、まず、専門の医師に診てもらいましょう。そして、定期的に受診し、根気よく治療しましょう。

毎日の生活では次のことに注意しましょう。

○入浴できれいに体を洗う

○洗った後はクリームやローションで皮膚をしっとりさせる

○衣類や寝具は清潔にし、皮膚に刺激を与えないようにする

○部屋はホコリをためないようにする

○バランスのとれた食事(離乳食)をこころがける

保健所では奇数月の第四水曜日午後一時からアトピー性皮膚炎の相談を行っています。気軽にご相談ください。

